

サイエンストークスからの 第5期科学技術 基本計画への提言

サイエンストークス委員会
2015.03.26



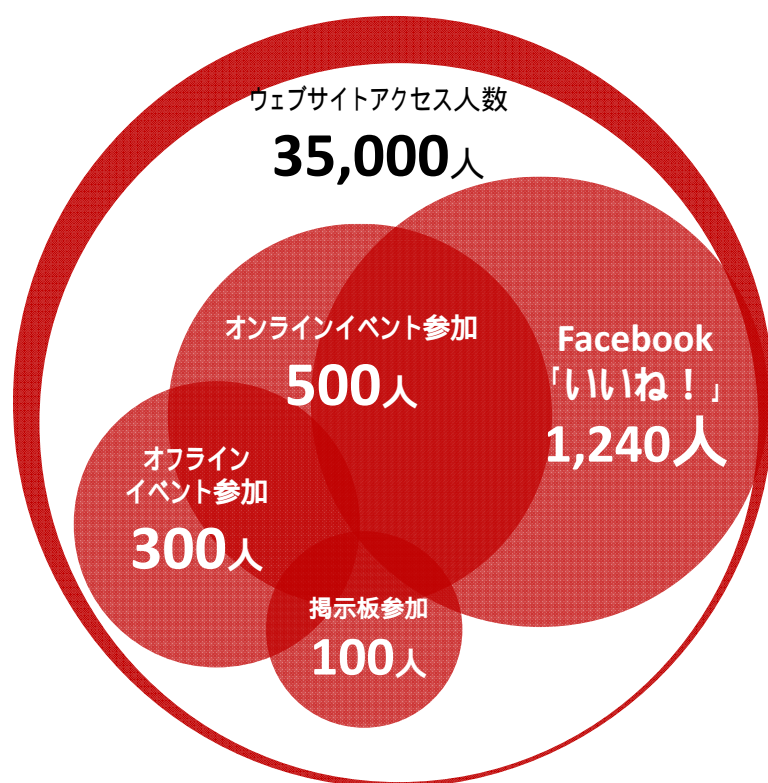
3/24/2015

サイエンストークスとは

「ニッポンの研究をもっと元気に、面白く。」
を目標に、日本のサイエンスの
新しい潮流を創り、プロモートする
若手ムーブメントです。

サイエンストークスは、研究や実務の現場の若手が中心になって活動する日本のサイエンスを盛り上げるためのムーブメントです。2013年の発足以来、多くの個人有志が参加し、対話を通じて新しいアプローチを模索し、作り上げてきました。

イベントや情報発信を通じて今研究の世界で起きている問題を捉え、多様なステークホルダーと語り合っブレクスルーを探ること。未来を変える萌芽的なアイデアや実践をプロモートすること。そんな活動を通じて、現場の若手が火付け役となって研究の世界にポジティブな変化の循環を広げていく様々な試みをしています。



3/24/2015

サイエンストークスの活動

オフライン・イベント（8回開催）

年1回の大型オープンフォーラムと科学トークイベントを定期開催。若手を中心とした多くの関係者が個人として議論に参加し、対話を通じて草の根的な提案を吸い上げる企画を行う。在日外国人や、民間で活躍する博士などを巻き込み、従来とは異なるチャンネルをで多様な意見集約を実現する場として成長中。



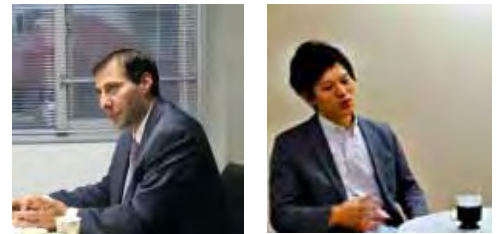
ネットで意見集約

掲示板とTwitterを通じて誰でも個人ベースで科学技術の議論に参加できる新しいくみを立ち上げ。



先駆者インタビュー配信

クラウドファンディングやオープンアクセスに実際に取り組む人へのインタビュー記事などで最新のトレンドをキャッチ。



ネット中継・学会メディア・サポート

地域をまたいで議論に参加できるよう、イベントをライブ中継。学会大会と連携してイベントを盛り上げ。



3/24/2015

3

研究や実務の現場の若手の意見を
科学技術政策にもっと役立てて頂きたいから
**勝手に「第5期科学技術基本計画」
みんなで作っちゃいました！**



2014年3月～2015年2月の11ヶ月をかけて、サイトやイベントで集めた意見を集約して提案書をリリースしました。オンライン、アンケート、オフラインイベントを含め総勢300名程度の参加者にアイデア集約に貢献していただきました。



提案書のまとめ



事例集めとオープンフォーラムでの
テーマリーダーによる発表と議論

3/24/2015

4

サイエンストークス版 提案書の骨子

「ひと」への信頼

社会からの支援と協働のもとで研究インテグリティを維持できる文化を形成
社会と研究との関係を取り戻すことによって、研究が社会的な価値を生み出せるようになる。



「ひと」

を中心に置いた
顔が見える科学の実現



「ひと」の多様化

多様性を歓迎する制度や環境の整備を行い、多様な人々を研究の主役にする事で集合知を發揮

ジェンダー、国籍、障害、職業等にかかわらず、研究をしたい人に研究の門戸を開き、社会にとって価値のある研究を増やす。



「ひと」の評価

人のポテンシャルを最大限に引き出す多様な評価軸とキャリアパス、それに応じた安定したポストの導入

実力のある研究者とサポート人材がおちついてハイリターンな研究に専念できる環境を整える。



「ひと」が活躍できる組織づくり

面白いプロジェクトに自然と人が集まり、集中して研究できる魅力的な大学づくり

斬新で自由な人材の登用
より長期的な研究支援
研究マネジメント人材の育成
企業・大学の行き来を自由に



Diversity 「ひと」の多様化



多様性を歓迎する制度や環境の整備を行い、多様な人々を研究の主役にする事で集合知を發揮

ジェンダー、国籍、障害、職業等にかかわらず、研究をしたい人に研究の門戸を開き、社会にとって価値のある研究を増やす。

Diversity オモシロイ人を集める・活かす



包摂



- 多様性を排除しない環境づくり
 - ハラスメント対策の徹底とライフラインの設置
 - 外国人、障がい者、性的少数者等雇用差別事例についてのデータベース化

- 立場・条件に応じた互助的な研究者ネットワークの創出支援・奨励 (技術・資金)

「問題の当事者」が研究者と対等、もしくは研究主体でもあるような学術活動を奨励する

- 例)
- 環境問題とコミュニティの意思決定社会問題と当事者間の解決
 - 「当事者研究」の奨励

共生産

「大学外」および「大学内外」の研究活動を支えるインフラ作り

- 都市の中に、誰でも使用可能な公的フリースペースをふやす
- 組織に属さない研究者の資金申請や倫理基準審査のための窓口設置
- 「やってみよう」的な自生的イベントの可視化、共有インフラをつくる

繋

手話で研究論文

Deaf Studies Digital Journal
ISSUE 4 SPRING 2014
FROM THE EDITORS ARTICLES COMMENTARY LITERATURE VISUAL ARTS FILM & VIDEO

Article: "Two Views on Mathematics Education for Deaf Students: Edward Miner Gallaudet and Amos G. Draper"
By Chris Kurz

In this article, Christopher A.N. Kurz reviews the history of a disagreement between Edward Miner Gallaudet and one of the best-known deaf teachers at the college, Amos Galusha Draper.

Download Text (DSDJ_entry182.pdf)

"Whence Came From"

出典
<http://dsdj.gallaudet.edu>

例) スウェーデンのストックホルム大学博士論文、イギリスのDeaf Studiesなど

研究者・住民・自治体と知の共生産

アリゾナ州立大学 Decision Center for a Desert City (<https://dcdc.asu.edu/>)

地域主導研究者コミュニティ、レジデント型研究の進展

co-production of knowledge and action



水供給問題の大型調査、シミュレーションと教育、行政、住民との協働
地域住民との定期的ワークショップ、情報収集、社会科学的手法を用いた意思決定

出典 <https://dcdc.asu.edu/watersim/watersim-v5-0/>

3/24/2015

9

参考：当事者研究（事例）

気持ち悪い！
（パニック）

えっ、どうして？



道端の枯れ葉

気持ち悪さを表現する写真



当事者による分析と写真撮影
→仮説：普段から部分的にフォーカスした情報をとる傾向にあるかもしれない

熊谷晋一郎氏による綾屋紗月氏の当事者研究紹介より（出典は次ページに記載）

3/24/2015

10

Competition & Collaboration

「ひと」の評価



人のポテンシャルを最大限に
引き出す多様な評価軸とキャ
リアパス、それに応じた安定し
たポストの導入

実力のある研究者とサポート人材
がおちついてハイリターンな研究に
専念できる環境を整える。

競争と共創

研究を最適化する評価システムとは

藤田保健衛生大学
宮川 剛



2001年と比べて今は...

長期の時間をかけて実施する研究(N=923)

計量標準、材料試験など基盤的な研究(N=899)

新しい研究領域を生み出すような挑戦的な研究(N=919)

地域独自の課題についての研究(N=911)

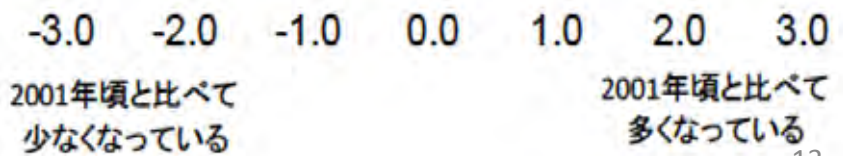
異なる分野の融合を目指す研究(N=918)

成果の出る確実性が高い研究(N=920)

短期的に成果が生み出せる研究(N=922)

一時的な流行を追った研究(N=922)

日本全体としての基礎研究の多様性(N=920)



減少!

増加!

「科学技術の状況に係る総合的意識調査 (NISTEP定点調査2012)」より

3/24/2015

2001年頃と比べて
少なくなっている

2001年頃と比べて
多くなっている

13

ハイリスク・ハイリターンの研究

腰をすえた着実な研究

が日本ではできにくい!!



なぜか?

3/24/2015

14